

前田朋子 ヴァイオリン

3歳よりヴァイオリンを、4歳よりピアノを習う。桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部を経て、デュッセルドルフ・ロベルト・シューマン音楽大学を首席にて卒業、同大学にて、ドイツ国家演奏家資格を最優秀の成績で取得。蓼科音楽祭奨励賞、カール・ニールセン国際ヴァイオリン・コンクールでディプロマ受賞、ティボール・ヴァルガ国際ヴァイオリン・コンクールで特別賞受賞。

今までに梅津南美子、尾関えりか、豊田耕児、石井志都子、M・ガイザー、T・ヴァルガ、E・ヘーバルト、P・バドゥラ＝スコダ各氏に師事。

ヨーロッパや日本で、ソロや室内楽で音楽活動を行ない、2007年より自身でプロデュースする「音楽の贈りもの」シリーズを、日本で定期的に開催している。2015年よりウィーン赤十字親善大使。2019年にはオーストリア政府の協力を得て、「日唄修好150周年記念コンサート」をオーストリアや日本各地で開催。

ウィーンの新シュテファン大聖堂やペーター教会、アッシジの聖フランチェスコ大聖堂、そして鎌倉の建長寺、円覚寺といった世界各地の教会やお寺の「人々が心から祈る場所」でのバッハの「無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ・パルティータ全曲演奏会」も毎年行っている。

録音は、名ピアニスト、パウル・バドゥラ＝スコダ氏とのシューベルトやベートーヴェンのソナタ他、多数。最新アルバム「モーツァルト後期ヴァイオリン・ソナタ」は、ピアノもヴァイオリンも一人二役で録音し、話題となる。

2020年からのロックダウン中の時でも、工夫を重ねた音楽活動を行い、特に「ウィーンのアパート中庭コンサート」は話題となった。オーストリアの古城や教会、美術館といった特別な場所からのフェイスブック・ライブ配信も、毎月発信し続けている。

そのユニークな存在は、絵画芸術や文学といった分野にも影響を与え、画家や小説家のモデルともなっている。

2023年2月にBS・TBSの番組に出演、6月にはウィーン万博150周年を記念したイベントでウィーンのラートハウスで演奏。